

平成29年11月30日

平成29年度 全国学力学習状況調査（鴨志田中学校の結果）

平成29年4月18日に横浜市立中学校※3年生（約2万5千人）、鴨志田中学校3年生（82人）を対象に実施された全国学力・学習状況調査結果の概要をお知らせします。

※義務教育学校、特別支援学校を含む

《 教科に関する調査結果 》

◎結果

Aは主として「知識」に関する問題、Bは主として「活用」に関する問題です。

「平均正答率（％）」

	国語A	国語B	数学A	数学B
鴨志田中	78	74	68	54
全国との差	+1	+2	+3	+6
横浜市	78	74	65	50
神奈川県	77	72	64	48
全 国	77	72	65	48

※文部科学省と同様に平均正答率は整数値で表しています。

◎調査結果に特徴のある問題（全国との比較）

【国語A】

- ・「文章について説明したものとして適切なものを選択する」問題が7ポイント高い。
- ・「先生から必要な情報をもらうために適した発言に直す」問題が7ポイント高い。
- ・「詩について説明したものとして適切なものを選択する」問題が7ポイント低い。
- ・「漢字を書く（店をイトナむ）」問題が12ポイント低い。
- ・「適切な語句を選択する（えりを正して話を聞く）」問題が12ポイント高い。
- ・「適切な語句を選択する（よい結果を早く出したいときは、急がば回れといわれるように、かえって慎重に議論を進めるべきだ）問題が10ポイント高い。
- ・「話し合いの記録として適切な言葉を考える」問題が10ポイント高い。
- ・「『徒然草』の作品の種類として適切なものを選択する」問題が13ポイント低い。

【国語B】

- ・「スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直す」問題が7ポイント高い。

【数学A】

- ・「 $10 - 6 \div (-2)$ を計算する」問題が5ポイント低い。
- ・「3月25日を基準にして3月23日を負の数で表す」問題が5ポイント低い。
- ・「数量の関係を一元一次方程式で表す」問題が11ポイント低い。
- ・「半径が5cm、中心角が 120° の扇形の弧の長さを求める」問題が18ポイント高い。
- ・「反復横とびの記録の範囲を求める」問題が13ポイント高い。
- ・「6月1日から30日までの記録を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める」問題が13ポイント高い。

【数学B】

- ・「六角形をn個作るのに必要なストローの本数を、 $6 + 5(n - 1)$ という式で求めることができる理由を説明する」問題が12ポイント高い。
- ・「与えられた式から、aの変域に対応するbの変域を求める」問題が18ポイント高い。
- ・「2つの角の大きさが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する」問題が18ポイント高い。
- ・「点Dと点Eを $BD = CE$ の関係を保ったまま動かしたとき、 $\angle BFD$ の大きさについて、正しい記述を選ぶ」問題が15ポイント高い。

《 生活習慣・学習習慣に関する調査結果 》（抜粋）

◎結果

主体的に学ぶ態度の育成に関わる質問事項のうち、いくつかを抜粋してお知らせいたします。

	鴨志田中学校の生徒数の割合(%)	横浜市の中学校生徒数の割合(%)
	H29年度	H29年度
家で、学校の授業の予習をしている	29	39
家で、学校の授業の復習をしている	39	46
自分には、よいところがあると思う	68	67
放課後には学習塾など学校や家以外の場所で勉強をしている。	65	56
学校の授業以外に1日あたり2時間以上勉強をしている	56	49
これまでの授業で、課題に対し、自分から考え、取り組んできた	65	64 (70)
これまでの授業で、自分の考えを発表する機会では、工夫して発表してきた	58	56 (57)

※（ ）内は全国の児童生徒数の割合

- ・家で授業の予習をしている生徒は横浜市の平均よりも10ポイント下回っている。
- ・家で授業の復習をしている生徒は横浜市の平均よりも7ポイント下回っている。
- ・自分には、良いところがあると思うと答えた生徒は横浜市の平均よりもわずかに上回っている。
- ・学校の授業以外に1日あたり2時間以上勉強していると答えた生徒は、横浜市の平均よりも7ポイント上回っている。
- ・主体的な学びをしている生徒は、横浜市の平均と比べて1ポイント上回っているが、全国の平均より5ポイント下回っている。
- ・自分の考えを工夫して発表している生徒は、横浜市の平均よりも2ポイント上回っている。

◎考察

この結果から読み取れることは、生徒は学校外の学習により多くの勉強時間を費やしている。自分の考えを工夫して発表することができる生徒が増えており、近年授業でも力を入れているアクティブラーニングやグループ内発表などが功を奏しているのではないかと考えられる。

《 授業改善に向けて 》

調査結果から考えられる授業改善の視点は次のとおりです。

- ・ 昨年度までと同様に、全ての教科において、「知識」に関する問題（A）より「活用」に関する問題（B）がよい傾向にあったことから、生徒に思考力、判断力、表現力等が育まれていると考えられる。基礎的な知識及び技能の習得を図るとともに、引き続き、知識及び技能を活用して課題を解決する授業の展開が求められる。
- ・ 基礎的な知識及び技能の確実な定着を図るためには、児童生徒が実生活や実社会につながる課題を自らが発見し解決する過程を通して、基礎的な知識及び技能を活用する場面を工夫し、生徒が必要感をもって学ぶ指導が大切になる。あわせて、家庭・地域と連携した学習習慣の定着に向けた取組を進めることが望まれる。
- ・ ある教科等で学んだことを、その教科の中でだけ生かすのではなく、他の学習や日常生活に生かそうとする生徒の育成がこれからますます求められる。そのためには、教科等の枠を超えて育成を目指す資質・能力を明確にしていく必要がある。
- ・ 生徒が身に付けた力を自覚することが、自分にはよいところがあると肯定的に捉えることにつながっていくと考える。そのため、生徒が目標（めあて・ねらい）を明確にもち、自分に何ができるようになったか、どのように学んだかを振り返るような授業が大切になる。
- ・ 生徒の視野を広げ、より広範な関わり合いを持つため、特別活動の時間を含めて、生徒同士が相互に関わるができる機会を多くもうけることが必要である。

《 参考資料一覧 》

○文部科学省HP 全国的な学力調査（全国学力・学習状況調査等）

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/index.htm

○国立教育政策研究所HP 教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

○神奈川県HP 全国学力・学習状況調査の結果について

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f531252/>